第2回 船橋市総合計画審議会 会議録

日時 令和元年7月31日（水） 15:00～16:50

場所 船橋市役所 9階 第1会議室

<出席委員>

宇於崎委員、牛山委員、柏木委員、中原委員、藤野委員、宮脇委員、屋代委員、坪井委員、三須委員、本木委員、若生委員、稲垣委員、小渕委員、深尾委員、萬屋委員、片桐委員、古賀委員、小林委員

<市出席者>

山崎副市長、杉田企画財政部長

<事務局>

林政策企画課長、千脇政策企画課長補佐、大島政策企画課長補佐、富田政策企画課総合計画係長

欠席委員

中村委員、矢部委員

次第

1. 報告事項

- (1) 公募型市民会議の実施報告について
- (2) 後期基本計画の進捗状況について

2. 議題

第3次船橋市総合計画 骨子案について

3. その他（次回の予定）

傍聴者 3名

会議の公開・非公開の区分 公開

議事内容：

開会（15時00分）

○ 事務局（政策企画課長補佐）

それでは、定刻となりましたので、ただいまより第2回船橋市総合計画審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。議事に入るまでの進行を務めさせていただきます、政策企画課長補佐の大島です。前回の審議会では御欠席されており、御紹介できなかった委員の方を御紹介いたします。日本大学理工学部教授の宇於崎勝也様、そして、船橋市PTA連合会監事の坪井弘美様です。それでは、本日の資料を確認させていただきます。

- ・次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・資料1 市民ワークショップふなばSHIPミーティング報告書
- ・資料2 後期基本計画の進捗状況
- ・資料3 第3次船橋市総合計画の構成
- ・資料4 第3次船橋市総合計画 骨子案<序論>
- ・資料5 第3次船橋市総合計画 骨子案<序論> 補足資料
- ・資料6 骨子案についての事前意見

以上となります。不足がございましたらお申し出いただきますようお願いいたします。本日の審議は2時間程度を予定しております。

続きまして、委員の欠席者について御報告いたします。本日は中村委員、矢部委員より御欠席の御連絡を受けております。委員20名のうち18名の方に御出席していただいておりますことから、船橋市総合計画審議会条例第5条第2項に規定されております会議の開催要件を満たしていることを御報告いたします。次に、会議の公開、傍聴について御説明いたします。本会議につきましては、不開示情報が含まれておりませんので、船橋市情報公開条例第26条により公開となります。また、傍聴につきましては、事前に傍聴者の定員を10名として市のホームページに掲載させていただきましたことを御報告いたします。なお、本日3名の傍聴者がいらっしゃいますことを御報告いたします。それでは、船橋市総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、議事の進行につきましては、会長をお願いいたします。宮協会長、よろしく御願いたします。

○ 宮協会長

皆様、本日もよろしくお願いいたします。それでは、議事に入ります前に、傍聴者の方に入場いただきます。

（傍聴者 入室）

傍聴者の方は、受付の際にお渡しした「傍聴に関する注意事項」の内容に従って傍聴されるようお願いいたします。

1. 報告事項

(1) 公募型市民会議の実施報告について

○ 宮協会長

それでは、本日の議事に入ります。報告事項1「公募型市民会議の実施報告について」となっております。では、事務局より報告をお願いいたします。

○ 事務局（政策企画課総合計画係長）

それでは、公募型市民会議の実施報告をさせていただきます。資料1を御覧ください。公募型市民会議は、第3次総合計画策定の中の市民参画の一環として、5月から6月にかけて3日間にわたって実施しました。会議の名称は、参加される方が親しみやすいように「ふなば SHIP ミーティング」としました。この「ふなば SHIP ミーティング」は、ワークショップ形式にて、将来に向けたまちづくりのあり方を検討していただき、その結果を、第3次総合計画の策定にあたっての重要な基礎資料として活用することを目的としております。

4ページを御覧ください。この会議は、昨年度実施した市民アンケートの対象者6,000人に対して、参加を呼びかけ、応募のあった29人の方に御参加いただき、検討を希望するテーマ別に参加者を5つのグループに分けて行いました。

7ページを御覧ください。ワークショップでは、3つの段階に分けて、検討を進めていただきました。第1回では、各テーマにおける「船橋市の強み・弱み」の洗い出し、第2回では、「強みを伸ばし・弱みを改善するための基本的取組」の検討を行いました。最終回で、各分野における「めざすべき姿」の検討と発表及び「報告書」の取りまとめを行いました。

8ページからは各グループの報告内容になります。

9ページからは健康・福祉グループの検討結果となりますが、健康・福祉グループでは「健康・福祉全般」「地域福祉・高齢者福祉」「健康・医療」「障害者福祉」4つの分野について検討を行いました。

10ページを御覧ください。健康・福祉グループの検討分野のひとつである「健康・福祉全般」というテーマについて、御紹介します。第1回では、本市の各分野における「強み（いいところ）」と「弱み（課題と感ずるところ）」を検討していただき、強みとして「福祉に関する情報発信の多さ」や「ボランティアの活動が活発」等が挙げられました。弱みとして、「情報発信はあるが、福祉サービスの利用方法がわからない」「福祉に関する情報が、個人情報保護により情報を必要としている市民に行き渡っていない」という意見がありました。

11ページを御覧ください。第2回では、第1回で洗い出した強みと弱みについて、強みを伸ばし、弱みを克服する基本的取組を検討していただき、「効果的な情報発信」「ふれあう機会の拡大」「ボランティア育成・参加促進」という3つの取組をまとめていただきました。

12ページを御覧ください。第3回では、基本的取組の推進により各分野の「めざすべき姿」を検討していただきました。めざすべき姿というのは、各分野において、こういう状態になってほしい、こうなっているべきという理想とする状態であり、検討の結果として「みんながわかる情報発信～ベビーカーから車イスまで～」や「ボランティアが活発に行われ、ふれあい・交流が進んでいる状態」という2つの状態像にまとめていただきました。

このように各グループで、各検討テーマに沿った様々な分野について、今紹介させていただいた流れで検討を行いました。報告書は全63ページございますので、内容の紹介についてはここまでとさせていただきますが、今後の審議の参考として活用していただければと思います。以上簡単ですが、公募型市民会議についての報告とさせていただきます。

○ 宮協会長

ありがとうございました。それでは、ただいま公募型市民会議の実施報告ということで事務局の方から御説明をいただいたわけですが、委員の皆様の方から御意見御質問等を自由に提示していただければと思います。

○ 柏木委員

御報告ありがとうございました。このような公募型市民会議の活動は今後も継続して行っていくのでしょうか。

○ 事務局（政策企画課総合計画係長）

市民会議は第3次総合計画策定の市民参画の一環として行い、今年の5月から6月にかけて、市民アンケートの対象者の中から公募型により実施させていただきました。昨年度には、前回審議会でも御紹介させていただきましたが自由参加型の市民会議も実施しております。今

後、総合計画以外の市の取組の中で同様の場はあるかと思いますが、この第3次総合計画の策定の一環としての市民参画ということでは、この2つの市民会議で完了したと考えております。

○ 柏木委員

総合計画が作られた後に、参加された市民の方に、もう一度集まっていただき計画について御説明することはありますか。

○ 事務局（政策企画課総合計画係長）

今後同じメンバーに集まっていただいて、総合計画作成のことを改めて御検討いただくということは想定しておりません。

○ 本木委員

こういった活動は評価できると思っています。この中で、地域で取り組んでもなかなかできない非常に難しいこと、例えば、10ページのように閉じこもりがちな人へのアプローチ等についての対処方法がわからない。そのような内容について、この会議ではどのように取り上げていくのでしょうか。ワークショップで市民から出された意見であるため、これらの意見をどのように第3次総合計画の中に反映していけるのか、ここの部分が大事であると思います。事務局としての考えを教えてください。

○ 事務局（政策企画課長）

今回出していただいた御意見については、市民の方の考えという形で取りまとめさせていただいており、この後の基本計画や個別の施策等を作成する段階で各所管課にも市民の意見を提供します。すでに市で実施しているものもありますし、また市ではできない部分もありますが、そういう中で検討していきたいと考えております。

○ 本木委員

そうすると、ワークショップで出されたような意見を、第3次総合計画の案を検討していく中で、具体的に意見が反映されることはないということですね。市民の意見についてなんらかの形で第3次総合計画案の中に盛り込んでいく場面もあるのではと思っています。基本計画の中へ反映していくということで、当審議会の中では特別に議論をしないということでしょうか。また、基本計画の議論をする機会があるのでしょうか。

○ 事務局（政策企画課長）

2020年1月より、基本計画の審議をお願いする予定です。今回の報告書では、市民会議の様々な意見がまとめられています。これから基本構想で、重点課題等方向性を示していく中で、取り入れられる部分もありますし、すでに取り入れられているものもあります。色々な形で、各課で取り入れる方向で検討しているところでございます。

○ 宮脇会長

柏木委員から御指摘があった点ですが、ワークショップに参加したメンバーは30名程度と理解しています。色々なやり方が選択肢としてあると思うのですが、先ほど御指摘があったように、やはり最終的には総合計画を作るために集まっていただいているので、何らかの形でフィードバックをしないとよくないのではと思っています。ただ、集まっていただくかどうかは色々なやり方があると思っていますので市側の判断になりますが、こういう形になりましたと示すことはぜひお願いしたいと思います。これは、議論を伺っていた中で私の意見ということになります。

それから2つ目の点についても、資料3について後程説明いただくことになるわけですが、ワークショップで出ている意見は基本的な考えに属するものから個別の事務事業に該当するものまで多岐にわたります。これから市側で一定の整理をしながら我々の担当する基本構想、基本計画、こういったところに盛り込むべき概念だよね、分野のことだよよねというような整理は当然我々としても受け止めながら議論していくことになると思っています。ただ、個別の実施計画における具体的な事業については、市側の最終的な御判断になると思っています。

○ 柏木委員

会長から補足いただきましたが、市民とともにある船橋市役所とするのであれば、双方向のコミュニケーションがあるといいのではないかと考えています。市民会議では市民の方から声を上げていただいたということだと思いますが、何らかの形で、船橋市からワンアクションを起こしていただくと、双方向のコミュニケーションになるかなと思います。

○ 宮脇会長

今の御意見は要するにアウトリーチ型でできたものについても積極的に相手に伝えてくださいという御趣旨だと思いますので、何らかの形で御検討いただければと思います。それでは、報告事項2「後期の基本計画の進捗状況について」事務局より御説明をお願いします。

(2) 後期基本計画の進捗状況について

○ 事務局（政策企画課総合計画係長）

それでは、後期基本計画の進捗状況について御説明させていただきます。資料の2を御覧ください。

1 ページ目に概要を記載しておりますが、後期基本計画は、現在の総合計画である第2次総合計画における2階層目にあたる計画であり、計画期間は、平成24年度から平成32年度（令和2年度）までとなります。この後期基本計画では、計画の進行管理を行うための目安として、各基本施策に「参考指標」として数値目標を設定しています。この参考指標は、各施策を構成する事業の成果や実績等のうちから代表的なものを選定したもので、3年に一度、施策の進捗状況の確認・分析しております。直近では平成29年度末時点における実績の評価を行っておりますので、本日はその内容について御報告させていただきます。なお、評価基準としては、1ページ目の下段に記載させていただいているとおり、達成率により4段階の評価としております。

では2ページ目を御覧ください。こちらは、後期基本計画は第1章～第7章までで構成しており、その章ごとの達成状況を示したものになります。全体としての達成状況は、表の1番下の行になりますが、「達成」が43.1%と「概ね達成」が41.6%となっております。この2つを足した数値をA+Bとして1番右側の列に記載しておりますが、この合計値が84.7%となっております。計画全体としての進捗は概ね順調に推移していると言えます。

次に、3ページを御覧ください。こちらは、各章を細分化し、左から3列目の基本施策ごとの達成状況を示したものになります。基本施策というのは、例えば第1章であれば、「健康」や「高齢者福祉」、第2章であれば、「循環型社会の構築」や「災害対応の充実」等のある具体的な施策のくくりとなります。個別の進捗の説明は割愛させていただきますが、基本施策ごとの進捗の目安として、後程、御覧いただければと思います。

次に4ページを御覧ください。こちらは、指標ごとの達成度について、一覧表としてまとめたものになります。各指標の詳細については、本日お渡ししております後期基本計画進捗状況の冊子を御覧いただければと思います。こちらの一覧表では、各指標の平成29年度の間目標値に対する進捗状況をまとめたものになります。

なお、これらの各指標の進捗状況については、本日御審議いただく基本構想よりも、分野別計画である2階層目の基本計画の各分野の施策を検討する際の参考となるものと考えておりますので、本日は総括的な部分のみの説明とさせていただきます。説明は以上となります。

○ 宮脇会長

事務局からもありましたように、この進捗状況につきましては当然今日で議論が終わるというよりは、これから施策ベースのものを議論していただくときに委員の皆様からチェックをしていただき御意見いただくものでございます。今回は頭出しという形ということで共有をしていただくというところですが、お気づきの点がございますか。

○ 本木委員

冒頭に29年度末の評価と説明していましたが、その認識であれば、すでに2年前の進捗状

況ということになります。その中で達成率が0%の施策の評価、例えば「暮らしを支える雇用環境の充実」については、どうして0%の評価になっているのでしょうか。

○ 事務局（政策企画課総合計画係長）

「暮らしを支える雇用環境の充実」については後期基本計画の基本施策の1つであり、この進捗を測る指標については、お手元資料の8ページの各指標一覧の中の、左側の列の94・95番の指標になっています。この2つの指標は29年度中間目標値についていずれも到達していなかったことから、2つとも達成できないということで、達成率が0%という進捗の状況となっています。

○ 官協会長

じっくり見ていただかないとわからない点があると思いますが、他の方がいいでしょうか。

○ 宇於崎委員

これは庁内の各課の自己評価ですか、それとも第3者が入ってきちんと外部のチェックがされているのでしょうか。

○ 事務局（政策企画課総合計画係長）

評価の基準に照らして市のほうで自己評価させていただいたものになります。

○ 官協会長

指標そのものを設定するときには、例えば外部の評価委員会だとか何らかの外部者が入って設定しているのか、それとも行政内部で議論してこの指標設定をしているのか。その点だけ教えてください。

○ 事務局（企画財政部長）

評価そのものについては、基本的にどこかで諮って決めたということはありません。庁内内部でそれぞれ施策指標に合わせて目標年次や中間年次を考えた上で指標の設定をしています。ある意味定量的に表せる部分を内部で設定したという形になっています。それと補足させていただきますと、あくまでも中間目標に対する評価となっていて、最終的に今の後期基本計画の目標達成はどうかと思われる方がいらっしゃると思います。目標年次を令和2年度としていることから、令和3年度を初年度とする第3次総合計画の策定に生かしきれない形にもなっています。そのため、事務局で考えているのは、すでに指標の実績として中間目標値を達成できているものについては、基本的にはこの施策は問題ないと考えますが、それ以外の達成できていないものについては、現状どうなっているのかの確認を年度内に進めていきたいと考えております。

2. 議題

(1) 第3次船橋市総合計画骨子案について

○ 官協会長

続いて議題1「第3次船橋市総合計画骨子案について」です。事務局から御説明をお願いします。

○ 事務局（政策企画課長）

それでは、まず骨子案の説明に先立ちまして、総合計画の構成について改めて御説明させていただきます。資料3を御覧ください。

総合計画の階層としましては、1階層目が「基本構想」、2階層目が「基本計画」、3階層目が「実施計画」となります。各階層に掲載する具体的な内容のイメージについて、現行の第2次総合計画を例示しながら御説明いたします。

2ページ目を御覧ください。まず、1階層目の「基本構想」はまちづくりの目標である「将来都市像」とまちづくりの理念をうたった「基本理念」を掲げるものになります。

続いて、3ページ目A3の資料を御覧ください。2階層目の「基本計画」は各分野における現状課題から、その分野において取り組むべき主な取組について記載するものになります。

例示しているページは高齢者福祉の課題や取組をまとめており、施策として「高齢者の生きがいの創造」、「在宅福祉の充実」、「介護サービスの充実」と3つ方向性を掲げ、それに向けて具体的に取り組むべき内容等を掲載しています。

続いて、4ページ目を御覧ください。3階層目の「実施計画」は各分野における主要事業を掲載するものになります。それぞれの事業は、先ほどの基本計画で触れました施策に紐付いており、このページは「在宅福祉の充実」と「介護サービスの充実」に紐付いた事業が掲載されています。実施計画は、予算化し実行していくべき事務事業を掲載するもので、より具体的な内容となります。

総合計画の各階層の記載内容は今御説明したとおりになりますが、本総合計画審議会においては、1階層目の「基本構想」と2階層目の「基本計画」について御審議いただくこととなります。3階層目の「実施計画」については、「基本構想」、「基本計画」が決定し次第、その実現のために重点的に行う事業を選定し、作成するものになりますので、本審議会の対象とはなっておりません。つまり、委員の皆様には、具体的な事業というよりは、市が今後10年間において目指す方向性について御審議いただくこととなります。

総合計画の構成については以上です。

続いて、第3次総合計画骨子案について御説明いたします。まず第3次総合計画の構成についてです。資料4の2ページを御覧ください。第3次総合計画は「序論」、「基本構想」、「基本計画」という大きく3つで構成することを考えております。それぞれの位置付けを説明しますと、まず「序論」では、総合計画策定の前提として、市の状況や今後の見込み、また市を取り巻く状況を、「特性」、「社会経済情勢」、「発展の可能性」、「重点課題」の4つに整理しています。これらの情報を整理し、分析することで、市が今後10年間で目指すべき方向性を導き出すものです。続いて、「基本構想」には、前段の「序論」の各項目からまちづくりの大きな方向性を導き出し本市の市政運営の基本理念として「めざすまちの姿」を掲げます。また、その基本理念を包含・集約し、市民と広く共有できるまちづくりの目標として「将来都市像」を掲げることとしております。続いて「基本計画」は、「基本構想」を実現するための施策を位置づけるもので、「重点戦略」と「分野別計画」で構成することを予定しています。

「分野別計画」では、各分野における基本施策と主な取組を位置付けることとしています。また、この「分野別計画」の中で、「基本構想」の実現のために、特に重点的に取り組むものについては、「重点戦略」として位置付け、重点的に予算措置を行うことを想定しています。

本日御審議いただく内容は、1番左側の「序論」部分になります。今回、序論について審議いただいた後、8月21日に予定しております第3回審議会で「基本構想」部分である「基本理念」について御審議いただく予定です。

では、「序論」の内容を御説明いたします。骨子案の3ページを御覧ください。なお、骨子案と併せて、資料5の骨子案補足資料も御覧いただければと思います。

「序論」では、先ほどお話ししましたとおり、市の現状や今後の見込み、また市を取り巻く状況を、「市の特性」、「市を取り巻く社会経済情勢」、「市の発展の可能性」、「市の抱える重点課題」の4つに整理しています。

まず、3ページは「市の特性」についてです。補足資料は1ページからになります。ここでは、本市の特徴と言える部分について6つに整理しています。

まず、「①地理的優位性」と「②充実した鉄道網を活かした生活利便性の高い都市構造」については、本市は都心へのアクセスに優れた立地と、9路線35駅という充実した鉄道網を活かした生活利便性の高いまちとしての特徴を有しています。続いて、「③都市近郊にありながら、多様な自然環境が残る」については、本市を北側から見て台地から、斜面、低地、海へと続く地形となっており、北部には多くの草花が咲き誇るアンデルセン公園、南部には潮干狩りができる三番瀬等、本市は都心近郊にありながら、自然に親しめる環境が多く残っていることが特徴と言えます。「④堅調な人口増加、高い定住意向」については、特性の①から③により整理した

交通利便性や生活利便性の高さ、また都市と自然の調和といった特徴、強みを生かして、全国的に人口減少が進む中であっても、堅調に人口増加が進んでおります。また、人口が増えるだけでなく、市民意識調査では8割を超える方が住み続けたいとの意向を示しております。

「⑤多彩な産業が発達」については、本市は多くの商業施設と商店街が共存・共栄している県内有数の商都である一方、工業面では、首都圏の台所機能を担う「京葉食品コンビナート」が立地しています。さらには、豊かな三番瀬の恵みを受けた漁業や、梨、にんじん、小松菜等幅広い品目を生産している農業が盛んである等多彩な産業が発達しております。「⑥船橋に根差す文化・スポーツ」については、文化の面では、国史跡指定を目指している取掛西貝塚をはじめ数多くの遺跡が存在していることに加え、「音楽のまち」を冠し、様々な音楽イベントを開催しています。また、スポーツ面では、昭和58年に「スポーツ健康都市宣言」を行い、環境の整備を進めてきたことにより、市民が日常的にスポーツに親しんでいます。

続いて、4ページの「市を取り巻く社会経済情勢」についてです。補足資料は10ページからになります。ここでは、市を取り巻く社会経済情勢について、今後市が対応していく必要があるものを、本市のまちづくりへの影響の大きさを考慮したうえで、6つに整理しています。

まず「①進む人口減少・少子高齢化」では、本市は今後もしばらく人口は増え続けるものの、全国的な人口減少や少子高齢化の影響は本市にも確実に及び、今後の10年では特に、後期高齢者が急増し、人口構造が大きく変化していくことへの対応が求められることが予想されます。続いて、「②広域道路ネットワークの整備」では、圏央道や外環道のほか、北千葉道路の整備によって、本市を含む沿線地域の広域的な道路ネットワーク機能の向上や交通渋滞の解消等が期待されています。「③自然災害のリスクの高まり」では、南海トラフ地震や首都直下型地震のほか、大型台風や短時間強雨等、近年全国的に頻発している自然災害への備えが必要とされています。「④先端技術の活用による新たな価値を創出する社会の実現」では、近年のAIやIoT等の技術革新は、「第4次産業革命」と呼ばれ、私たちの生活にも大きく変化をもたらしています。国では、先端技術の導入による「Society5.0」の実現を目指しており、こうした流れは今後も加速していくと見込まれます。「⑤低炭素・循環型社会に向けた取組」については、温室効果ガス排出量の削減や、限りある天然資源の消費を抑制するための2Rの推進等が引き続き求められています。「⑥持続可能なまちづくりへの取組」については、近年人口減少や少子高齢化が進む中で、地方公共団体においても持続可能なまちづくりを進めることが急務であり、国連サミットで採択されたSDGsで示されている経済、社会及び環境の3側面における総合的な取組は、その推進に資するものとされています。

続いて、5ページの「市の発展の可能性」についてです。補足資料は18ページからになります。これは、将来を見据え、市として伸ばしていくべき強み及び今後のまちの発展の可能性を整理しました。

まず、「①増加する人口、まちを支える市民の力」についてです。補足資料は19ページとなります。本市の人口は、中核市最大の63万6千人であり、今後も令和15年の66万4千人まで増加が続く見込みです。また、市民による活動の輪は様々な分野に広がりを見せており、活発な地域・社会活動が行われているほか、市民意識調査の結果を見ると、「住み続けたい」という定住意向や「愛着を持っている」割合が高くなっています。こうした市民の潜在的な力を最大限発揮できる環境を整えることで、さらにまちの発展が期待できるものです。次に「②高まる健康意識」についてです。補足資料20ページからとなります。高齢化が進む中において、市民の健康への意識は高まっており、健康寿命も着実に伸びています。また、本市はJAGESプロジェクトという日本老年学的評価研究機構による平成28年度の「健康と暮らしの調査」に参加し、本市は参加市町村の中で、総合的に最上位となりました。こうした健康づくりの取組を進めることで、元気な高齢者によって、さらなるまちの活力を生み出すことが期待されるものです。次に「③さらなる産業発展の期待」についてです。先ほどの社会経済情勢の中の広域道路ネットワークの整備でも触れましたとおり、広域道路の整備進展により、本市の持つ立地優

位性がより高まり、新たな物流拠点や企業の進出が期待されるものです。最後に「④新たな魅力を創出するまちづくり」についてです。補足資料は22ページからとなります。本市においては現在、新しい2つの大きなまちづくりを進めています。1つ目は、ふなばしメディカルタウン構想をコンセプトとする「海老川上流地区のまちづくり」です。海老川上流地区は本市の中央に位置し、東葉高速鉄道が地区内を東西に走り、海老川が南北に流れる自然が豊かなエリアでもあります。この地区に市立医療センターの移転と東葉高速鉄道の新駅誘致を核とし「健康寿命日本一」に取り組む本市の健康医療の中核となるまちを目指しています。2つ目は、JR南船橋駅前の市有地の活用です。この土地は駅前という好立地にありながらも、土地活用が図られていない状態が続いておりましたが、官民連携による開発を進め、臨海部の玄関口としてふさわしい魅力あるまちを形成していきます。これらのまちづくりを推進することにより、本市の新たな魅力の創出が期待されるものです。

続いて、6ページの「市が抱える重点課題」です。こちらは、先ほどの「発展の可能性」とは反対に、克服すべき、あるいは解決すべき市としての弱み及び課題を整理したものです。

まず、「①複雑多様化する地域課題への対応」についてです。補足資料は26ページからとなります。本市においては、転入超過が今後も続くと思込まれる地域と、人口減少・高齢化が進むと思込まれる地域の2極化がさらに進むことが思込まれています。さらに、単身世帯・共働き世帯の増加や外国人住民の急増等、地域の生活環境が大きく変化することが思込まれることから、それぞれの状況に応じた対応が求められています。次に「②より安全・安心に暮らせる都市基盤の整備」についてです。補足資料は30ページからとなります。本市においては、市民意識調査等によると歩行者等の安全対策や交通渋滞対策は市民が強く求めており、市としても大きな課題として捉えています。また、社会経済情勢でも触れましたが、近年頻発している自然災害への備えとしての公共施設の整備維持も重要となっています。次に「③子どもを安心して産み育てられる環境の整備」についてです。補足資料は32ページからとなります。

全国的な少子化傾向は本市においても同様であり、年少人口は減少傾向となっています。また、待機児童数はピーク時より減少しているもの、解消はされていないほか、子ども達や子育て世代を取り巻く環境も大きく変化しており、安心して子供を産み育てることのできる環境の整備が重要な課題と言えます。次に「④超高齢社会に対応した地域包括ケアシステムの構築」についてです。補足資料は35ページからとなります。高齢化が進む中で、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域包括ケアシステムの構築を進めておりますが、今後はより一層の取り組みが求められているものです。最後に「⑤持続可能な行財政運営に向けた取組」についてです。補足資料は37ページからとなります。本市においては、子育て支援等に係る扶助費や、医療や介護に係る経費、公共事業の整備に伴う公債費等の義務的経費の増加に伴い、このままの財政運営では財源不足になることが予測されています。この状況を受け、市では平成30年度末に令和元年・2年度を集中取組期間とする「行財政改革推進プラン」を策定し、「事業の精査・見直し」、「積極的な歳入確保」等の行財政改革を進めております。持続可能な行財政運営に向けた取組として、第3次総合計画の期間においても、継続した行財政改革が必要と考えているものです。

ここまでが、「序論」の内容となります。

本日の審議では、事前にも御意見をいただいているところですが、今回お示しした事務局案に、欠けているものがないか、不要なものがないか、現在示されているものとは違うものが良いのではないかと考えた視点で御意見をいただければと思います。説明は以上です。

○ 官協会長

第3次総合計画の骨子案という序論の部分について事務局から説明をしていただきました。先ほどから御説明がありましたように非常に広範な領域にわたっております。基本構想等を考えていく前段になるものでございますので、全体としての見直しをしていくということになると思います。本日はとりあえずこの骨子案について第1回目の審議をしていただきたいと思います。

うこととなります。この骨子案につきましては、事前に委員の皆様にご意見をいただいております。この御質問、御意見のうち、本日は大きく2つに分けさせていただきたいと思っております。皆さんからいただいた御意見御質問を大きく分けますと、事務局から提示をしていただきました内容に新たな要素を加える御意見がございます。それからもう1つは骨子案につきましての内容の確認、あるいは根拠、こういったものについて御質問いただくという2種類に大きく分かれております。後者につきましては、とりあえず事務局側で整理をしていただきまして、各委員に個別に回答していただくという手続きを取りたいと思っております。その上で、各委員には、個別に回答のあった段階で他の委員の皆様にも情報として共有いただければと思っております。今日皆さんと御議論をまず始めたいというのは、1つ目の事務局案に新たな要素を加えるという意見のものでございます。この意見につきまして、お手元の資料6を御覧いただきたいと思っております。骨子案につきまして、新しい視点や要素を加えるというものにつきまして、萬屋委員から御意見をいただいております。まず萬屋委員から2つにつきまして御趣旨を教えていただきまして、補足するべき点がございましたら、その点につきまして御発言をいただき、その後委員の皆様とまずは審議を進めていきたいと思っております。

○ 萬屋委員

市民委員の萬屋でございます。よろしくお願いたします。まず、骨子案の5ページ、「船橋市の発展の可能性」の欄の2番目、「②高まる健康意識」について、これは日本全国について言えることだと思いますが、船橋市においても、少子高齢化が進んでおまして、老年人口が増加しております。ここで述べられている文章の高齢者の健康増進等とまちの活力アップの取り組みは非常に重要であると思っておりますが、これをさらに一步踏み込んで、働く意欲のある高齢者に就業の機会と場を提供することにより、高齢者に生きがいを感じながら働いてもらうことは健康寿命の延伸につながり、ひいては介護・医療費等の増加の軽減に資するものと思われまます。政府も「骨太の方針」において「人生100年時代」を迎えて、高齢者の雇用の促進を進めており、まさに時代の要請に沿ったものと考えられます。具体的には、例えば表題を「②高まる健康意識」から「②高まる健康意識と生きがい」などに変更して、骨子案の文章につなげて「また、働く意欲のある高齢者の就業機会を増加させる取り組みを進める。これにより高齢者が社会に貢献することで生きがいを感じながら最後まで元気に活躍できる機会と場を提供することが期待される」などとしてはいかがでしょうか。

続いて、骨子案の6ページですが、右側の「船橋市が抱える重点課題」欄の2番目になります。「②より安全・安心に暮らせる都市基盤の整備」ですが、自然災害への対応はインフラ整備などのハード面の対策のみならず、精度が高く、かつシンプルなソフト面の対策も入れた方がより適切と思われまます。ソフト面というのは個々人の防災意識の向上、それから災害時の初動対応、現実的な避難場所及び手順などで比較的費用はかからないと思われまます。具体的には、骨子案の文章につなげて、例えば、「加えて、市民の防災意識向上と個々の状況に合致した現実的な避難手順等の整備に取り組む必要がある。」などとしてはいかがでしょうか。

○ 宮協会長

今後の進め方、これからの進め方でございますけれども、5ページ目でございます、船橋市の発展の可能性という中で「②高まる健康意識」というところについて、萬屋委員の意見を踏まえまして盛り込むかどうか、具体的な文書につきましては全体との関係も踏まえまして、後ほど皆様から会長副会長の方にまずは案を作れというような御一任をいただきたいと思いますと思っておりますが、第1に今いただきたいのは萬屋委員が言われましたような働く意欲、生きがい、こういう趣旨について、盛り込むことにつきまして、委員の皆様のお考えというのをお聞きしたいということでございます。この点につきましては、事務局案の方には明示的に記載がされていないということもございまして、皆様の方にまずは御意見をいただきたいとそれが今回の趣旨ということになります。

○ 本木委員

萬屋委員の「高まる健康意識のために働く意欲のある高齢者の就業機会を」という意見に全面的に賛成です。あえて言いますと、まちづくりに参加している町会自治会では、高齢化率が上がったという意見があると、高齢者が悪いような気がしてしまう。そうではなく、日常のまちづくりに参加する機会はたくさんあり、したがって、萬屋委員が就業機会を増加させるという表現にあえて加えると、「まちづくりに参加できる機会を高めて、そしてこれを高齢者の社会貢献に結び付けていく、ひいては高齢者の生きがいにつなげていく」というような表現にさせていただくとさらにありがたいと考えています。

○ 柏木委員

萬屋委員の意見に賛成します。今日配っていただいた進捗状況やワークショップの中身を見ると、資料2の6ページの47番や55番等達成できておらず、また「自発的な防災意識の向上」というのは必要不可欠だと思っており、入れておいたほうがよろしいのではないのでしょうか。資料1においても、56ページになりますが住民の防災意識について弱みが書かれており、また防犯についても、住民側の意識と行政側の意識の間に乖離があるかと思っています。31ページの船橋市の周辺の環境が悪い等とも書かれていますので、公募型の意見や後期基本計画の進捗等をトータルで考えますと含めておいてよいかと思っています。

○ 片桐委員

2つ目の防災の観点について、市民の防災意識の向上と行政からの啓発活動はさらに進めるべきだとは思いますが、個々の状況に合致した避難経路の整備について、例えば、津波の避難マークは付けているが、後は各町会のそれぞれで考えるべきだということで、危機管理課等で研修を行っていることもあり、行政が主導で進めることが危険なこととも思います。

○ 宮脇会長

ここで議論の整理をさせてください。まず、皆様からいただいた御意見の中で、船橋市の発展の可能性の「②高まる健康意識」のところに、高齢者の働く意欲ですとか、御指摘いただいたような事項について盛り込むことにつきましては委員の皆様の方から特に反対の御意見というのはなく積極的に入れるべきではないか、という御意見の方が多というふうに思います。これにつきましては、盛り込む方向で私と副会長の方で、一度検討させていただいて、またお諮りしたいと思います。2番目の防災についてですが、この骨子案の最後のページ、6ページ目を御覧いただきたいと思います。この骨子案の6ページを見ていただきますと、船橋市が抱える重点課題となっており、先ほどと少し位置づけが異なるブロックとなっております。重点課題というのは、色々やることあるわけですが、その中で船橋市としてはこういうところにまず優先順位をつけてやっていきたいということを示すところになります。そのため、ここに書かれていないからやらないということではない、そういう位置づけのところでございます。そこで、一旦この考え方につきまして、先ほどの萬屋委員のお考えを聞かせていただいたところですので、この意見に対する船橋市としての考え方を教えていただければと思います。

○ 山崎副市長

1つ目については、市としても、項目の中に入れていくべきだと思っています。2つ目については、もう1段階下のレベルでも十分表現できることかと思っています。

○ 宮脇会長

御指摘事項としては非常に重要なことではあります。骨子案のほうに入れるのか、それとも基本構想あるいは基本計画に位置付けて考えていくべきなのか、このような住み分けをする判断が必要だと思っています。災害が起きた場合に、まずコミュニティがどう動くかという自助力を発揮させるために、今回の案でいうと、都市基盤を優先して整備したいという市側の優先順位の御判断があると思っています。萬屋委員の2つ目の意見については審議会でこれからどこに位置付けていくかを審議していくため、全体図を見ながら改めて御議論いただければと思います。御提案は受け止めて、引き続き検討していきたいと思っています。骨子案について、その他、お気づきの点があればお願いします。

○ 本木委員

資料4について何点か確認したいと思います。

1点目は、本日は序論の部分に限定するということですが、第2次総合計画の基本的な考えを引継ぐのかどうかは次回議論するということでのよろしいでしょうか。

4ページについて、「自然災害のリスクの高まり」では、南海トラフ地震や首都直下地震等記載がありますが、昨年、政府の地震調査会によると、関東一都六県で震度6弱の地震が起こる確率が30年以内に85%といわれています。また、千葉県地震防災戦略では千葉県北西部の直下地震といわれており、その中で最も被害が大きいと想定されている市は船橋とされています。政府の地震調査会で発表されている、船橋市で最も懸念される地震について、30年以内に85%で起こるということを序論に含めていくと市民への警告になるのではないかと考えています。

「⑤低炭素・循環型社会に向けた取組」の中にステークホルダーという言葉があります。日本では市民権を得ている言葉ではないと思っています。直訳すると、企業の利害関係者となっていますが、船橋の地球温暖化対策地域協議会等市民で構成されている会もあります。「市民・事業者への情報提供と活動促進を図るということで、すべてのステークホルダーが一体となって」と記載されていますが、このステークホルダーという言葉が、日本では企業の利害関係者となっているため、市民運動等が該当しなくなると考えています。あまりこのステークホルダーという言葉にこだわらないほうが良いと思い、表現について御検討いただけないでしょうか。

6ページについて、高齢化が急速に進む中で、人口動態の2極化が進んでいますが、中身を考えてみますと、行政5ブロックの中で高齢化が進む地域として、北部と中部のほかには東部が入っているのが引っ掛かっています。東部の高齢化率は前原や薬円台では低く、西部や南部と比較しても東部の前原や薬円台はまだ高齢化率が低いほうになりますので北部や中部と一緒にしてよいのでしょうか。

○ 宮脇会長

最初のところ事務局としてどう考えているか教えてください。それから、4ページ目の社会経済情勢の自然災害リスク。ここでは、首都直下地震で今後30年以内に発生する確率70%という、そういう記述になっているわけですがけれども、この記述につきまして、見直した方がいいのではないかと、そういう事実関係の御指摘、それから同じページの⑤のステークホルダーという言葉ですけれども、政策論的に言うとステークホルダーというのは企業だけではなくて、市民とかも含むのですけれども、ただ、一般的にはかなり分かりづらい言葉の1つではあるかなと思います。したがってこのステークホルダーという言葉がいいかどうかということとは再度検討させていただくということになると思います。そして、最後のこの人口動態の二極化、これにつきましても恐縮ですが事務局から、考え方を教えていただければと思います。

○ 事務局（企画財政部長）

1つ目、現状は序論を御議論いただいております、序論検討後に基本理念を考えていくこととなるかと思っていますので、次回以降に御議論いただければと考えています。

2つ目、リスクの高まりの部分については、昨年の8月に発表された85%の確率で地震が起こるといふ部分を加えるか修正するかは検討させていただくが、最新のデータを御提供すべきだと思います。

3つ目、ステークホルダーという言葉は確かに、なじみのない部分であり、その他にも序論で本来注釈をつけるべきという御指摘を他の委員からも受けているところでございます。ステークホルダーという言葉については注釈をつけるというよりは別の言葉に言い換える方向で検討させていただきます。

最後二極化についてですが、第1回の審議会の際に人口ビジョンの見直しということで報告書を上げさせていただきました。行政5ブロック以外にも、24地区コミュニティ別でもデータの分析を行っており、委員の御指摘のとおり、東部の中でも前原や薬円台という地域は高齢化

率がそれほど高くないという結果になっています。ただし人口動態については行政5ブロックの中で表記をさせていただきたいということで、大きな傾向として行政5ブロックで区切ったとしたら、こういった二極化が進んでいるという表現であるため、その点は御理解いただければと思っています。

○ 宮脇会長

最後の人口推計については、1回目の審議会でも指摘いただいたことですので、例えば、「行政ブロックで見ると」という言葉を補っていただくとよいかと思います。文章内のカタカナ表記については、理解が難しい単語もありますので、再度見直しをしていただければと思います。

○ 片桐委員

今の自然災害の数字のことですが、政府でも2か所から出ています。ここで出ている地震は「首都直下型地震」ではなく、「首都直下地震」となりますが、これに対応するものは中央防災会議で出している数字です。それで、文部科学省の地震調査研究本部で出している方は、各地47都道府県の県庁所在地で震度6弱以上の地震が起きる可能性のパーセンテージを発表しています。その結果によると、千葉県が日本全国で1番目ということになります。多分この場合でいうと中央防災会議の発表を使われるのがいいのかと思いますが、そのところは調査していただきたいと思います。

○ 宮脇会長

事務局の方で精査をしていただくと同時に、資料の出典は何なのかというところまでわかるようにしておかないといけないかなと思います。

○ 本木委員

今後30年で70%という内容は市民の中で浸透しているのは事実です。新しいインパクトを出すのであれば、地震調査会を正規のものとして取り入れてもよいかと思っています。市民としてインパクトが強いと思っています。

○ 宮脇会長

数字については、何を意味しているのかをきちっと確認した上で、一度事務局で検討いただき、次回以降御審議いただければと思います。

○ 中原委員

先ほど骨子案「②高まる健康意識」での議論があった際に対案が思い浮かばなかったのも、意見を述べられておりません。その点について一言申し上げたいと思います。補足資料の20ページに「健康意識の内容」についての記載があります。これを見ますと、船橋の財産として、この点は大きく評価したいと思いますが、これが高まる健康意識ということなのかということについて、“意識”としてまとめてしまうことは若干違和感があります。むしろこれは器としての健康な体を手に入れていく、そういうところが成功し、なおかつそれを活用して、より積極的に生きようとするそういうムーブメントを起こすことが船橋の活力として、意味があるということが盛り込めるといいと思います。それを高まる健康意識とくくってしまうと、何か消えてしまうような印象がありますので、その点について御検討いただきたいというのが1点です。

もう1点は、この骨子案全体を拝見したときに、船橋市の発展の可能性の1つとして、やはり早期から英語教育に取り組んできたり、音楽教育や体育を通じ各分野での子どもたちの活躍や子どもの育ちの姿が、やはり市の財産として、大きいように私としては感じております。その点がここには一切浮かんでこないことが残念です。子どもたちがやっぱり船橋の優位な人材として、その姿が私たち大人を元気にしてくれている。そういうことをさらにここに盛り込んでいけると、元気な船橋の要素が加わるように思いますので、その点についても御検討いただきたいと思います。

○ 宮脇会長

高まる健康“意識”という、“意識”でまとめていることについては、事務局と検討させていただきます。2つ目、子どもの視点について、事務局はどう考えていますか。

○ 山崎副市長

全体を通して、全ての市民が対象と考えています。中原委員の御指摘も含めていると思いますが、その表現がもう一步ということかと認識しています。子どもだけの特出しするということを意識はしていなかったのですが、どのように表現すべきか、一度検討させていただき、皆様に御提示させていただければと思っています。

○ 宮脇会長

ありがとうございます。確かにこれは特定の年代にターゲットを絞って整理しているわけではありませんので、当然これは子どもも含むということなのですが、先ほど本木委員の発言にあったように、どちらかという高齢者というのが言葉としてはやはり可視的かなと思います。それを次の世代とか、何かそういうのも欲しいんですよねっていうのが今の御指摘だったのかなと思います。その他いかがでしょうか。

○ 柏木委員

1点目ですが、現在の総合計画を引き継ぐように継続性を考えて第3次総合計画を検討したほうがいいのでしょうか。2点目は中原委員の御指摘につながるかもしれませんが、序論の構成として、市の特性や市を取り巻く社会経済情勢、重点課題等について、それぞれ関連性がないという認識でよろしいのでしょうか。それとも、もし関連があるとすると、3ページの「⑥船橋市の特性」とするのであれば、5ページの①の中に盛り込まれているとは思っていますが、現在の内容が、やや高齢者に焦点があたっていて、包括的になっているとは思えませんので、もともとの序論の構成、ロジックがどうリンクしているのか、どのように組み立てられているかをお聞かせください。

○ 宮脇会長

2つ目の質問について、おそらく今の段階だと、基本構想や基本計画の体系化が示されていないため基本構想、基本計画を検討していく中で、体系化していく必要があると思っています。現状は、パッチワークのようになっていると思っていますが、最終的には一定の体系化がないと説得力がないと思います。

事務局から、継続性の問題、体系化の問題について補足で御説明をお願いします。

○ 事務局(政策企画課長)

今の第2次総合計画と第3次総合計画の関連は、まったく第3次総合計画が新しいということではなく、今の計画を踏まえる部分もあると思います。評価をし直しながら、継続する部分と、10年を見据えたうえで新たに取り入れていく部分もあると思います。宮脇会長からもお話があったように、序論の4項目については、体系を整えていく必要があります。

○ 藤野委員

4ページに「④先端技術の活用による新たな価値を創出する社会の実現」の方向性を示していると思いますが、私も今、県の30年後を見据えた計画の検討員会に入っておりまして、介護や地域に関わる分野も含めて、先端技術の情報を盛り込めないのかなと思っています。30年前について調べたら、インターネットが始まった頃です。今後かなり技術発展する可能性があり、高齢者に関する様々な問題について、先端技術を使いながら解決する社会の実現ということを含める必要があるのではないかと思います。

○ 宮脇会長

当面10年間という形でターゲットを決めていくことは行政として不可欠ですが、もう少し長期にわたって教えていただいたような技術革新という流れが生じているわけですからそれを踏まえて、やはり10年間のところをある程度明示するということは必要なことだろうなと思います。また色々御助言いただければと思います。その他いかがでしょうか。今日色々な御意見をいただきましたが当然今日で完結するわけではなく、日程的に詰まっておりますけれども8月にも、審議会を開かせていただく予定でございます。

皆様にはいくつかお願いがございます。今日いただいた意見を踏まえましてとりあえずの骨

子案を、皆さんの御意向をどこまできちっと反映できるかというところは今の最後の問題も含めて自信のないところもありますけれども、副会長と私の方にとりあえず案作りの方を一任していただきまして、事務局と相談の上次の案を作成させていただきたいと思っています。御議論がありますように、この序論というのは基本計画ですとかそういうものを作り上げていく中で、体系化というのは当然必要になってきます。一方で段階的にある程度整理をしなきゃいけないということもあるものですから、それで確定させるとかそういうことではございません。したがって、今日御議論を聞いていただいて、御発言がなかなかできなかった委員の皆さん、事務局の方にこんな点あるんじゃないのと教えていただければと思います。今後の進め方そういう形でよろしいでしょうか。それでは今申し上げましたように、現時点で出ております委員の皆様御意見を踏まえまして、とりあえず8月段階での骨子案につきましては、私と副会長で、事務局の方と相談しながら次の審議会のときにまた御提示するというような形にさせていただきたいと思っています。

3. その他

○ 事務局（政策企画課長補佐）

本日も長時間にわたり、ありがとうございました。次回の審議会の予定ですが、8月21日水曜日で、時間は午後1時半からとなりますので、よろしくお願いたします。なお、会場については、変わりまして、市役所11階の大会議室となりますので、御注意ください。正式な開催通知は後日改めて御案内させていただきます。

また、次回の審議内容について、今回と同様に事前に委員の皆様意見・質問の照会をさせていただきます。8月の2週目にメール等で送付させていただきますので、よろしくお願いたします。本日の会議録について、事務局で作成し次第、メール等で送付させていただきますので、御確認くださいようお願いたします。

○ 宮脇会長

それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

閉会（16時50分）

以上